

# 特集

〈事例〉

## 先輩会員から就業希望会員へ 技能を伝承し技と心をつなぐ

公益社団法人  
三郷市シルバー人材センター

(埼玉県)

三郷市SCでは、新たに就業を希望する会員へ技能を伝承するため、先輩会員が講師を務める講習会を毎年開催。令和5年度は、植木剪定、襖・障子の張り替え、自転車リサイクルの各講習会を実施し、就業会員がマンツーマンでその技を丁寧に伝授すると、受講者から「受けて良かった」との感想が聞かれた。センターでは、会員間の技能伝承を今後も大切に継続し、受講者を増やしたいと考えている。

### 技能講習会で 後継者を育成

三郷市SCは、昭和56年に三郷市高齢者事業団として発足し、令和3年に設立40周年を迎えた。この間、地域のニーズに添えて多様な仕事を受注するとともに、会員の就業能力とサービスの質の向上を目指して、会員を対象として植木剪定や襖・障子の張り替え作業などの技能講習会を開催してきた。齋藤衣子専務理事兼事務局長は、技能講習会について、「シニアからシニアへさまざまな技能が伝承されてきて、今のセンターがありま

感慨深げに話した。

技能を伝承する講習会を開催する目的について、井上啓司主幹兼業務係長は次のように話す。

「職種によって異なりますが、植木剪定、自転車リサイクル、襖・障子の張り替えについては、徐々に就業会員の高齢化が進んできているので、後継者を育成する目的が中心となっています。60代や70代前半の会員に技能を伝えて新たに就いてもらえると、10年ほどは就業できると思います」

### 開催している講習会

令和3〜5年度に企画・開催した講習会のうち、就業会員が講師となつて会員に技能を伝承した講

令和5年度植木剪定講習会



習会は次の通り（かつこ内は受講者数）。

令和3年度

●植木剪定の基本（2人）

令和5年度・障子の張り替え講習会



● 自転車整備・修理（1人）  
令和4年度

● 襖・障子の張り替え（3人）

● 植木剪定の基本（2人）

● 自転車リサイクル（希望者なし）

令和5年度

● 植木剪定（3人）

植木剪定作業に従事する会員を育成することを目的とした講習会を10月30、31日の2日間、市青少年ホームで開催した。センターの

会報「シルバーみさと」(第88号)に掲載された開催報告によると、

3人の会員講師の丁寧な指導の下、

安全講習からさまざまな樹木の剪

定方法、片付けの仕方など広範囲

に学ぶ内容であった。受講した会

員からは、講習会で具体的な知識

を得ることができたので良かった

との感想が聞かれたという。植木

剪定作業は受注数が多い一方で、

人材不足が続いているため、植木

造園班への加入をこの会報の記事

からも呼び掛けている。

● 襖・障子の張り替え（2人）

3月12、13日の2日間、各日9

〜16時、センター作業所で開催。

1人の会員講師が、襖、障子の張

り替え作業を丁寧に指導した。

● 自転車リサイクル（3人）

2月19〜21日の3日間、各日9

〜16時、センター作業所で開催。

今回は、この講習会を取材した。

### 自転車リサイクル講習会

三郷市SCでは、もともとは放

置されていた自転車を市から譲り受けて再生し、基本的に毎月1回販売する事業を行っている。また、

三郷駅北口ロータリー内にある自

転車利用促進サービスセンターの

管理も担い、土日祝日を除く毎日、

1人の会員がブレーキやハンドルの

簡易な調整や空気入れなどの無

料点検のほか、パンク修理やサイ

クル錠の取り付けなどの有料作業

を行っている。

令和6年2月現在、3人の会員

が就業し、シフトを組んで2人は

センター作業所でリサイクル作業、

1人は自転車利用促進サービスセ

ンターで修理などに対応している。

放置自転車の減少に伴い、再生し

て販売する台数は減っていて、今

では年間70台ほどという。

今回の自転車リサイクル講習会

は、自転車の整備に興味のある会

員を対象として、一般整備を学び

たい人は3日間のうち1日のみ、

再生も学びたい人は3日間受講す

る条件で開催。受講してさらに興

味が湧いたら、「一緒に就業しまし  
よう」と呼び掛けている。

取材では、最終日を見学した。

3日間の受講者には、一般的な整

備方法から、再生時に必要となる

自転車の全ての部品の取り外し、

各部品の点検や調整など、より高

度な整備方法をマンツーマンで伝

授していく。講師は、会員の由利

稔さんと佐藤任人さん。2人は同

時期にこの仕事に就き、令和5年

10月で丸5年を迎えた。

由利さんは、もともと自分でメ

ンテナンスを手掛けるほど自転車

が好きで、センターに入会してこ

の仕事を知り、就業を希望したと

いう。「それから先輩会員に「から

教わり、仕事ができるようになり

ました」と振り返る。講師として

心掛けているのは、「安全第一です。

作業中にけがをしないこと」と即

答した。

この日、由利さんの指導を受け

ていたのは、会員歴3か月の田口

寛さんだ。自転車を再生するとい



令和5年度に開催した自転車リサイクル講習会。最終日の修了式後には記念撮影をした（写真下・左から、会員の佐藤住人講師、大山操さん、田口寛さん、由利稔講師、竹野義英さん）



視しています。自分で考えたり納得したりしながらやってみることが大事なので、チャレンジしてもらおうようにしています」（佐藤さん）。

### 「直接指導することが大事」

多様な道具や部品が整理されて並ぶ自転車リサイクルのセンター作業所で、2人の講師はそろって、「直接指導することが大事」と話し、例えば、車輪にブレがないよう調整する作業では、ばらした車輪を専用台にセットし手で回しながらブレの有無を見るポイントなどを伝授。講師が手本を見せた後、受講者が挑戦するということを繰り返して、こつなどを伝えていた。

3日間の受講に参加した大山操さんは、自転車に興味があり、受講したという。「自転車の仕組みを知りたかったので、全て分解して教えてもらうことができ、とても満足しています、思っていた以上に奥が深いです」と感心しながら感想を語った。

1日コースを受講した竹野義英さんは、「自転車が好きで、自転車を通勤をしていました。自分でメンテナンスできるようにしたい」と思い受講したのですが、いろいろ教えてもらい、就業としても興味を持ちました」と笑顔で話した。

講習会の最後には修了式が行われ、講師から一人一人に修了証が授与された。作業所は、無事に講習会が完了した安堵感と達成感に満ち、講師も受講者もいい表情で記念撮影をしていた。その様子から、センターの技能伝承は、技を伝えるだけではなく、触れ合いの場でもあるのだと感じた。

### 刈り払い機による 草刈り講習会

令和5年度の技能講習会としてもう一つ、会員講師による講習ではないが、専門の講師に依頼した刈り払い機による草刈り講習会も開催された。草刈り作業では物損事故が多く発生していたため、刈

り再生事業に引かれ、3日間の講習を受講した。「技術的なことは何も知らずに受講し、道具や部品、仕組みについて教えてもらい、楽しく学ぶことができました」と充実した表情で話してくれた。

もう1人の講師の佐藤さんは、元小学校教諭だが、小さい頃から機械いじりが好きで、定年退職後に会員になり入会説明会でこの仕

事を知ってすぐに希望したという。

「講習会の開催時期ではなかったのですが、就業見学会を見学してメンバーに加えてもらいました。先輩会員から教わり、一つの工程ごとに確認してもらいながら技術を身に付けました。講習会では、安全な作業で安全な再生自転車を仕上げることを伝えるため、自転車の仕組みを知ってもらうことを重

専門の講師に依頼した、令和5年度刈り払い機による草刈り講習会



り払い機の使用を3年前から中止していた。しかし、就業会員の年齢が上がり、作業時の身体的負担を軽減する目的で使用を再開することにした。ただし、厳重なルールを定めて、この講習会を受講し刈り払い機の取り扱いを身に付けて修了証をもらい、安全な取り扱いを守って作業することをルール

の一つとした。講習会は、6月30日の9時〜16時30分に開催した。受講した会員は13人。刈り払い機の点検や整備、実技、作業時の注意点などを真剣に学んだ。

**男女を問わず 受講を呼び掛けた**

会員講師による技能講習会は、丁寧に技能を伝承するため、受講者の定員を植木剪定では10人、自転車リサイクルでは4人と少人数にしている。ただ、自転車リサイクルについては、令和4年度に講習会を企画したものの受講希望者がおらず開催中止となった。他の講習会についても、受講会員を増やすことが課題の一つだという。

「開催周知は、センターの広報紙で行っていますが、人を集めるのは容易ではありません。受講希望者もつといて、つかみ切れていないところもある気がしますので、さらに方法を考えていきたい」と齋藤事務局長。

また、現在女性会員が増えていることや、11人の理事のうち5人が女性理事であること、その女性理事の1人は刈り払い機の講習会を受講し、草刈り就業で活躍していることなどを例に挙げ、「機械を使えば草刈りは女性もできる仕事だと知りました。他の就業についても、これからは男女を問わず講習会の参加や就業見学の声を掛けていきたい」と齋藤事務局長は語った。

**小さな仕事で役に立つ**

三郷市SCは令和5年度から、ワンコインサービス事業にも取り組んでいる。朝のごみ出しや郵便物の投函とうかんといったちよつとした仕事を1回500円で引き受ける。

「受注数はまだ少ないのですが、事業に協力すると言ってくれている会員はけっこういます。子育て世代などの需要もあると思いますし、困っている人をサポートすることで地域の役に立ちたい」と齋

藤事務局長は張り切っている。こうした小さな仕事を含めて、会員がやりがいを感じて仕事に奮闘する日々の姿は、生きがい就業を地域に伝承している、ともいえるだろう。

(増山美智子)

事業運営状況 (平成30年度～令和4年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成30	728	394	1,122	2.5	891 (115,589)	79.4	2,093	496,455	20.5/79.5
令和元	744	411	1,155	2.5	872 (112,243)	75.5	2,136	500,322	23.7/76.3
2	753	437	1,190	2.6	847 (105,822)	71.2	1,817	476,793	28.0/72.0
3	750	463	1,213	2.6	871 (107,151)	71.8	1,748	479,664	31.7/68.3
4	693	446	1,139	2.5	853 (94,366)	74.9	1,621	438,605	33.9/66.1

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は請負・委任と労働者派遣事業を対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む